

想像力が、創造の始まり。

Imagination is the beginning of creation.

自己表現は人間であることの証明

私たちが感じたことをさまざまなやり方で表したいと願うのは、無意識のうちに自分を他の人に理解してほしいと思っていたり、自分の内面を外に表したいという欲求があるからに違いありません。では、立場を変えて、ほかの人の表現を見たり聞いたりする場合を考えてみましょう。私たちが、他の人の表した文章や絵や音楽や踊りを讀んだり見たり聞いたりしたとき、私たちの中でどんなことが起こりますか？

悲しい物語を読めば心がふるえ涙が自然に流れます。面白い漫画を読めば笑いたくなります。美しい絵を見ればうっとり見とれます。元気のいいリズムの音楽を聞けば体が踊りだします。

自己表現には大きく二つの意味があります。一つは、自己表現することによって自分にもたらされる喜びと満足です。もう一つは、他の人に与える喜びと満足です。この二つが満たされてはじめて自己表現は自己表現としての意味を持つのです。ですから自分以外の人を必要とする自己表現のためにはまず、自分自身が表現する喜びを十分に味わうことです。

あなたの喜びは、まわりの人を心豊かにすることでしょう。心の中のなにかを表現することは、生きることに繋がっているのです。



NPO現代用語検定協会代表理事

片岡 輝

詩人・児童文学者。東京家政大学名誉教授。代表作として「とんでったバナナ」「グリーン・グリーン」等の詩作品、童話、NHK「ポッカ・ポッコリ」のTV作品等多数。

挑戦は夢から始まる!

誰かが私をみてくれる!



選考委員 結城 昌子 (アートディレクター)

子どもとアートを繋ぐ書籍を作りながら、長年子どもたちと関わってきた私はこんな質問を良く受けます。

「あのね、僕のお父さんは絵がうまくて、印象派のモネみたいな絵をかけるんだよ。お父さんの方が上手だと思う。なのにどうしてモネは有名なの?」

親思いの子どもステキな質問に、私はいつもこんな風に答えてきました。

「最初にやった人が偉い!」

誰にも似ていない自分だけの感性を表現することは、それだけで凄いことです。

新しい未来の扉を開こうとするそんな子どもたちに、発表の機会を与えたいと続けている自己表現力コンクール。自己表現にルールはありません。学校や塾とは異なった仲間たちの中で、澆刺と自分を表現する真摯なまなざしに出会えるのを、今年も楽しみにしています。

表現することは世界を豊かにする



選考委員 東海林 ふみ (作文教室主宰/シンガーソングライター)

「みんなが作文に書いたことは、先生には思いつかない素敵なことばかりで、びっくりしました。またみんなの考えたことを教えてください!」

放課後に子どもたちが集まるキッズルームで、作文ワークショップを開いたときのこと。キッズルームの先生が、作文を通して子どもたちの豊かな感性に触れたときの言葉です。子どもたちは、実は大人ですが、一人ひとりの想いや考えは本来、個性的なはず。「あなたの感じたことはとても大事な宝物なんだよ。それを伝えること、表現することは、世界を豊かにすることなんだ」。これを知っている子どもたちは、伸び伸びと自分自身を表現してゆけます。

子どものふとした言葉に、新鮮さや面白さを感じたことのある大人は少なくないでしょう。コンクールという表現の場にぜひご参加ください。

楽しみにお待ちしております。

自己を表現する



選考委員 小木 茂光 (俳優)

〈誰に? 何に対して?〉 最初に思い当たったのはラブレターです。

自分が何者なのかを真摯に考え言葉を紡ぎ、愛しい人へ想いを伝える。そして、互いの想いが共感、共鳴することで相手の存在を認め「愛すること」を知るのだらうと思います。

人は一人では決して心は豊かにはなりません。必ず自分を取り巻く人や物や、それぞれ空気が草花、大自然に至る全てと繋がって生きているのです。それらに対して自分は向き合って「愛すること」を続けているのか?

言葉にしましょう

絵を描いてみましょう

写真を撮ってみましょう

その作品を皆んなで共感、共鳴し合い、お互いに心豊かになりましょう。

誰かに「お!」と言われるように



選考委員 清水 均 (『現代用語の基礎知識』元編集長)

自己表現は、先生とかお父さんお母さんからあしなさいこうしなさいと言われてすることではない、言ってみれば“自由な遊び”です。何を表現するかはキミの自由。もちろん部門ごとに型式とかルールの縛りはあるけれど、「アンデバンダン」のように型式やスタイル自由!なんて部門もあります。戦略としては、自分の不得意なことは打っちゃって、好きなことを見つけてそれを極めていくのがオススメです。そして好きなことを磨きあげたら、ここからが大事なんだけど、それを誰かに見せてみよう。

自己表現は一人で完結する遊びじゃないんです。友だちでもいいし、お母さんでもきょうだいでもいい。誰かに見せて「お!」と言われたら成功。「それおもしろいね!」だったら大成功です。なかなか「お!」と言われるのは簡単じゃないかもしれないけれど、言われたらとても気持ちがいいですよ。そんな友だちを見つけられたら自己表現はもっと楽しくなるでしょう。

ことばで自分を伝える力



選考委員 志田 千帆 (NPOマナビエル代表理事)

これからの時代は、正解が一つではない社会だと言われます。だからこそ大切になるのが、「自分はどう感じ、どう考えるのか」を表現する力です。

それは子どもだけの力ではありません。学生も大人も、誰にとっても大切な力であり、一生にわたって育まれていくものです。

表現は、ことばだけではなく、文章、絵、造形、音楽など、人はさまざまな方法で自分の内側にある思いや発想を外へ表すことができます。

自分の中にある思いや感覚を表現すること。そして、誰かの表現に触れて心を動かすこと。その往復の中で、人は世界を広げ、自分らしさを見つけていきます。

このコンクールが、一人ひとりの表現が生まれるきっかけとなり、その表現を互いに温かく受け止め合う場となることを願っています。

生きている限り自己表現



協賛企業 糸井 幸男 (教育開発出版(株) 代表取締役)

当社がこのイベントの協賛をしているのは参加する皆さんの自己表現活動を応援し続けたいという熱い思いからです。私は既に還暦を超えたオジサンですが、学生時代は仲間とロックバンド活動に明け暮れる毎日を送っていました。愛する人への思いや理想とする社会への憧憬、戦争や差別といった不条理への抵抗を魂込めて音楽で表現し続けた青春時代でした。

残念ながらロックバンドを生業とすることは出来ず、大学を卒業して企業に就職。現在は社長業をしていますが、ポリシーとして大切にしてきたことがあります。それはロックバンド時代と同様に魂込めて仕事に臨むことです。仕事として社長業は私にとってまさに自己表現なのです。

自己表現力コンクールは25年を超える歴史を誇るイベントです。子ども時代から大人になっても毎年参加される方も少なくありません。

人生、生きている限り自己表現なのではないでしょうか?